

Ⅱ. セミナー等開催報告

Ⅱ-1. 平成 18 年度小樽商科大学地域活性化セミナー

「ダイガクも意外と役に立つ～小樽の工芸作家と語る小樽商大の活用法～」

9月29日(金)に紀伊國屋書店札幌店のインナーガーデンを会場にして地域活性化セミナーを開催しました。同時に札幌サテライト前では小樽のガラス工芸品と藍織物の特別展示も行いました。事前申込みなしのオープンなセミナーでしたが、当日は80名あまりの参加者がありました。

本セミナーの開催は、大学と芸術工房、大学のセンセイと工芸作家、この何のつながりもないように見える不思議な組み合わせから、地域を元気にするしかけが生まれ始めていることが契機になっています。大学が地域のためにできること、市民や地元企業が大学を上手に活用する方法について、小樽を拠点にして世界的に活躍する二人の工芸作家をお招きして、セミナー参加者とともに考えることを目的として開催しました。

参加者からは「小樽商大と小樽の街が、お互いに利益を生みだしていこうとしているのと同じように、今日は、僕と小樽商大のお互いの利益が出てきたんだと思いました。」「少し長すぎるのでは。しかし、学ぶ所がとても多くて楽しかった。」「商大との関係が強すぎたよう。大学は意外に役立つ所ではなく、良く役立つ大学が本物ではないか?少し残念。」といった感想をいただきました。

当日のプログラムは以下のとおりです。

【プログラム】午後6:00～

主催者挨拶

山本 眞樹夫 (小樽商科大学副学長・地域貢献推進委員会委員長)

第一部 講演

・小樽ガラス工芸

「OTARU ガラス工芸品の世界ブランド化プロジェクト」

海老名 誠 (小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長)

「小樽ガラス工芸品の魅力」

安井 顕太 (有限会社 ケーズブローイング代表取締役)

・染織造形

「北海道の染料植物と環境を考えた染織法」

角 寿子 (北の藍工房 主宰)

片岡 正光 (小樽商科大学教授・ビジネス創造センター運営会議委員)

第二部 パネルディスカッション

・「大学は本当に役に立つ？」

モデレータ 大津 晶（小樽商科大学助教授・ビジネス創造センター副センター長）

パネリスト 安井 顕太，角 寿子，海老名 誠，片岡 正光

閉会挨拶

海老名 誠（小樽商科大学教授・ビジネス創造センター長）



（第一部 講演で語る安井氏と
海老名センター長）



（第二部 左から大津副センター長，海老名
センター長，安井氏，角氏，片岡教授）



（ガラス工芸と染織の展示会の様子）

Ⅱ-2. 平成18年度小樽商科大学ビジネス創造センター産学連携研究成果報告会

3月2日(金)、札幌サテライト大講義室にて恒例の「小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学連携研究成果報告会」を開催しました。この報告会はセンターの研究成果を広く産学の関係者のみならず一般の方々にご報告することで、北海道経済活性化の役に立つことを目的としています。

会場は約50名の参加者でほぼ満席となり、熱気あふれる報告会となりました。

報告の内容は以下のとおりです。

第1報告 「ユーザビリティ活動の発信拠点を目指して」

報告者：葛西 秀昭 氏 (北海道日本電気ソフトウェア株式会社・ソフトウェア開発事業部ユーザビリティ推進マネージャー)

平沢 尚毅 (小樽商科大学社会情報学科・助教授)

第2報告 「小樽観光大学校の設立」

報告者：海老名 誠 (小樽商科大学ビジネス創造センター長・教授)

第3報告 「企業再生の現状と課題：再生事例からの教訓」

報告者：田浦 一史 (小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・客員教授)

籾本 智之 (小樽商科大学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻・助教授／小樽商科大学ビジネス創造センター北洋銀行企業再生寄附研究部門・助教授 (併任))



(成果報告会の様子)